

## ネオ・コンて何？

はじめに

- 1、ネオ・コンとは？
- 2、歩み
- 3、ブッシュ政権
- 4、中東大改編戦略～9・11から完全な断絶～

おわりに

はじめに

私たちは普段、ニュースや新聞でアメリカに関する情報を頻繁に入っている。今であれば世界金融危機と大統領選挙の二つだろう。私もマケインとオバマの公開討論を楽しみにしている。しかし私は何百いる上院議員のことも下院議員のことも知らない。ヒラリーが上院にいることを思い出す位なものだ。今大統領選挙で誰と誰が戦っているか知らなければ恥ずかしいのかもしれない。しかし、それを知ったところで一体何になるというのか。結局は何も分かっていない。ニュースは実に無駄なことをやっているのだ。

でも、だからこそ少しはわかった気になりたいと思うべきで、今回すこし手を付けてみようかと思う。結局全然わかっていないのだが。

### 1、ネオ・コンとは？

ネオ・コンサヴァティヴ Neo-Conservative、日本語に訳すと新保守主義者。もともと、“新”と言われても新も旧もわからない。実際のところ、従来の伝統的な保守主義者とは異なる点の方が多く、そのイデオロギーはリベラルの方に在る。

神学部神学科2007年度生 奥村崇瑛

## 2、歩み

彼らは50年代に姿を現し始めた。しかし、それが認知されてくるのは60年代になってからになる。まずは言論界からみられた。そしていまでもネオ・コンの言論上の牙城として大きな役割を担っているノーマン・ポドーレツ氏と『コメンタリー』もこのときからである。

## 3、ブッシュ政権

最大の敵であるソヴィエトが崩壊したことにより、その存在意義が霞みかけていたネオ・コンが新たな照準を見つけ新秩序の構築を目論む。ブッシュ政権、ネオ・コン、シンクタンク、軍需産業が一つにつながる。次の敵は見つかった。

## 4、中東大改編戦略

3の延長線上にある。

## 終わりに

今回、アメリカの政治家、知識人はどのようなイデオロギーをもって動いているのかということからはじめたわけだが、行き着いたのは、ネオ・コンの野望であった。しかし、アメリカ全体で言えば保守、リベラル問わずリバタリアンが飲みつつあり、発展性はより大きかったろうと今思う。

## 参考文献

副島隆彦『世界覇権国アメリカを動かす政治家と知識人たち』講談社 1999年

田原牧『ネオコンとは何か』世界書院 2003年

フォーリン・アフェアーズ・ジャパン 編『ネオコンとアメリカ帝国の幻想』朝日新聞社 2003年

横江公美『アメリカのシンクタンク』ミネルヴァ書房 2008年

## 1、ネオ・コンとは？

### 第一に反共

・初期ネオ・コン……ジーン・カークパトリックなど  
→理想主義、言論界が主戦場

・(すこし後の)ネオ・コン  
→現実主義、政界が主戦場

位置

## 2、歩み

50年代、60年代

70年代

ニクソン、フォード、カーター

78年エジプトとイスラエルの和平

**79年イラン革命、ソ連のアフガン侵攻**

80年代

**レーガン・デモクラット**

→クロス・ヴォウティング

レーガン政権

…パール→国防次官補、マックス・カンペルマン、ケニス・アデルマン→武器統制部門

90年代

反グローバリズムとの対峙…ブキャナン

新たな敵の模索

→「イスラモファシズム」

### 3、ブッシュ政権

・先制攻撃

→「20世紀の歴史は危機が現れる以前に良好な環境を創り出し、危機が差し迫ったものになる以前に対処することの重要性をわれわれに教えてくれた。」

・野蛮な力

→核兵器使用のハードルを下げることで実戦での運用も視野に

→「使える核」と「使いやすい核」

・軍需産業との癒着

…ロッキード・マーチン、レイセオン、ボーイング、TRW など

### 4、中東大改編戦略

・『完全な断絶』

→イスラエルの超越

・ネオ・コンの中東大改編戦略

→中東の現状の破壊＝望ましい反応